



# 湯河原ロータリークラブ WEEKLY REPORT



ロータリーは機会の扉を開く

2020年8月7日(金)  
例会 第2809回

天気：晴れ

合唱：君が代・我らの生業 四つのテスト

会長 山本明峰  
幹事 佐藤友彦

事務所：神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内  
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716  
例会場：ニューウェルシティ湯河原 静岡県熱海市泉 107  
TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401  
例会日：毎週金曜日 12:30～13:30

## 会長挨拶

次週はお盆の期間中ということで特別休会となります。今年にはコロナ禍の影響で帰省の自粛などということが取り沙汰されておりますが、湯河原に居ると意外と分からない、日本の地方での昔ながらのお盆の過ごし方というのが確かにありました。私が住持を務めている山梨の兼務寺のある山村でもかつてお盆の間は日常が一変し、お祭りの縁日のような雰囲気になりました。お盆が近づくと別れ際「善いお盆さんを」と挨拶を交わし合い、正に「盆と正月と一緒に来たよう」の言葉通りの浮かれた楽しい気分になりました。ちょうど「メリークリスマス」という時の様な。13日の迎えは、村内総出で盆踊りをし、其々のお宅で迎え火を焚き先祖の精霊を迎え入れます。家中の戸を開け「どうぞお帰り下さい」と念じながら。送りは近くの河原で精霊を流します。一抹の寂しさと共に・・・といった光景も何だか懐かしい風物になってしまいましたかね。もう十年近く前に盆踊りはスピーカーの使用禁止となった挙げ句、いつの間にもやら人手も不足し行われなくなってしまいました。棚経に伺っても、御年寄のご夫婦だけが座ってらっしゃることが多くなりました。十年ひと昔と言いますが、何だか自分も随分な爺さんになってしまった様な、そんな気がいたします。

## 幹事報告

幹事報告

国際ロータリー日本事務局より

1. 8月のロータリーレート 1ドル105円
2. 会員増強・新クラブ結成推進月間  
リソースのご案内

ガバナーより

1. 公式訪問のお礼状が届きました。
2. ロータリー財団月間(11月)卓話依頼について  
日時：9月19日(土)  
R財団セミナー 12:30～  
回答期限：9月22日(火)
3. 地区ロータリー財団セミナー及び第1回補助金管理セミナーのご案内  
補助金管理セミナー 15:00～  
場所：藤沢商工会議所 ミナパーク6階  
「多目的ホール1・2」  
回答期限：9月14日(月)

連絡事項

1. 次週は特別休会です。

## スマイルBOX

8/1～8/7

ご夫人誕生日 深澤昌光君(加代子様・8/3)

入会記念日 佐藤友彦君(4年・H28.8.5)

佐東丈介君

孫が大学最初の乗馬競技会山梨グランプリで優勝しました。

西山敦君

五所神社例祭典が縮小して無事終了しました。

西山敦君

五所神社奉賛会に御協力有難うございました。

出席報告	ゲスト 1名 ビジター 0名	会員 25名
	欠席 7名(免除者1名)	前回の修正出席率 95.45%
	出席率 75.00%	前々回の修正出席率 81.82%

事前メイクアップ 0名

ゲスト 石川浩子様

小倉高代君

8月21日櫻井さんに無理言って卓話を変えて頂きましてありがとうございました。当日は、わがサポート校の高校3年生の子が昨年からおためしていたプレゼンをやってお披露目できます。

当日は来年志願する自衛隊の方2名も応援に来て下さいます。

学生3名もお伺いします。何卒宜しくお願いします。

山本明峰君

娘(二女)が結婚致しました。 ※披露宴は中止とな

## 卓話：深澤 昌光君

### 1. はじめに

九州を襲った豪雨災害は各地で記録的な雨量(7月3～10日の合計降水量：熊本県芦北町で701ミリ、人吉市で814ミリなど)を観測し、熊本県の球磨川など4つの1級河川と多数の中小河川で氾濫が発生した。住宅の浸水や土砂崩れは九州7県で相次ぎ、死者63名、住宅被害12,006棟(7月10日午後8時時点)などの甚大な被害を引き起こしている。今回の災害の原因となった梅雨前線は南北二つの高気圧に挟まれながら九州を横切る形で停滞し、積乱雲が連なって大雨を降らせ続ける「線状降水帯」を形成していた。梅雨前線が長期にわたり停滞した要因の一つにインド洋の高い海水温(平年より0.6度ほど高い)がある。この影響によって強い上昇気流が発生し、暖かく湿った空気が2方向から流入したことによる。二つ目の要因として偏西風の蛇行がある。豪雨時、偏西風は例年より南に蛇行し続け、前線が北上しにくい状況が作られてしまった。その結果として線状降水帯が形成され、大雨が11時間継続した地域もあったという。

甚大な被害を起こした全長115キロの球磨川は、最上川(山形県)、富士川(静岡県など)と並び「日本三大溪流」の一つに数えられるほど流れが速く、雨水を速やかに海へ流し出す特性を持っている。しかしその流速・流量を凌駕するほどの激しい雨によって、その姿を「暴れ川」へと豹変させる。近年では1965年7月の氾濫において、人吉市や八代市など約12,000戸が床上・床下浸水の被害を受けた。この時の教訓を踏まえ、流域の自治体は「住民ごとの避難行動を決める防災行動計画(タイムライン)」を策定した。また熊本県も、日没前の避難を再三呼びかけるなど、総じて住民の防災意識は高い地域だった。しかし今回の豪雨による氾濫では球磨川沿いの特別養護老人ホームにおいて人的被害(避難できなかった人が多数)が発生している。今回の豪雨は、避難行動がとりにくい未明に突発的に発生したことも影響したと考えられる。長期にわたって停滞した梅雨前線は九州だけでなく、日本列島の広い範囲に記録的な大雨(平年の7月1ヶ月分の3倍を超えた地点も)をもたらす、四国や近畿の太平洋のほか、長野県や岐阜県など本州内陸部でも被害を出している。

また同月下旬には最上川が氾濫するなど、東北各地でも水害が相次いだ。今後台風シーズンへ向かう中、局地的な豪雨への備えを改めて考える必要がある。

### 2. 令和元年東日本台風(台風19号)の大雨について

台風の接近に伴い、神奈川県では県西部の山地を中心に1時間60ミリを超える非常に激しい雨を観測し、降り始めから3日間(10月10～12日)の総降水量は、箱根で1001.5ミリ(10月12日の日降水量922.5ミリは全国1位)、相模湖で631ミリ、丹沢湖で542ミリを観測した。資料には台風19号接近における湯河原町の経過概要、被害状況を示している。

### 3. 新型コロナウイルス感染症に配慮した避難所の開設について

昨今の新型コロナウイルス感染症への対応として、避難所において避難者同士の間隔を広くとる必要が生じている。このため各避難所の収容人数が制限されるが、それによって避難所での感染リスクが完全に下げられる訳ではない。そこで「ゆがわら防災マップ」に記されている、以下に示す項目を日頃からご家族と話し合い、自分(たちの)命は、自分(たち)で守るという理念の元、安全な避難や感染リスクの軽減を図ることが求められる。(括弧内の数字は「ゆがわら防災マップ」参照ページ)

- (1) ご自宅が避難する必要があるかを確認する。(24～61ページ)
- (2) ご家族や親戚・友人などが避難する場所を確認する(分散避難)。(24～61ページ)
- (3) 避難所に避難する場合に必要な物を確認する。(17ページ)
- (4) 息苦しさ、強いだるさ、高熱等の強い症状がある場合は、帰国者・接触者相談センター受付窓口に連絡し、その指示を受ける。

(受付は24時間対応) Tel 045-285-1015

### 4. おわりに

毎年のように全国において、梅雨前線、台風、地震で大きな被害が発生している。湯河原町は大きな災害もなく恵まれているが、災害は突然襲ってくるものである。日頃から「ゆがわら防災マップ」及び「ハザードマップ」に記載されていること(28～46ページ)を確認しながら、避難の際は早めに、明るいうちに避難することや、防災に対するご近所との日頃からのコミュニケーション、避難時のご近所との声かけなど、助け合って命を守ることが大切である。